

令和6年度 大田区立羽田小学校 自己評価 報告書

令和7年2月26日

○ 本校の概要

児童数265、学級数11、教員数20名、今年度開校121周年を迎える地域に密着した学校である。昨年度よりコミュニティスクールとなり、地元の祭りや伝統的な行事への参加をはじめ、干潟観察や町探検など、地域の方々と学校が一体となって子どもたちの健全育成に取り組んでいる。また、羽田空港に最も近い学校であり、総合的な学習の時間を用いたバリアフリーの学習やキャリア教育、空港イベントへの参加等、空港と日常的に連携を図り、学校教育に活かしている。また、東京都人権尊重教育推進校としての歴史は長く、近隣の高齢者団体や幼・保育園、食肉市場の方々との交流を通して、都の人権課題について積極的に学習に取り組んでいる。このように、本校は「地域力と国際都市おた」の実践に意欲的に取り組み、「人権尊重教育」に力を注いでいる学校である。また、学力向上においては、放課後補習教室を利用し、日頃の学習の成果や学習効果測定などの結果を基に、全教員が力を合わせて指導に当たっている。漢字検定では全ての児童が合格するまで指導し、学力効果測定の結果にもその成果が見られるようになってきている。

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	取組指標	取組評価	目標に対する成果指標	成果評価	これまでの取組 今後の改善策	学校関係者記入欄		
								評価	人数	コメント
<p>生予個 き測別 困目 力難標 をな1 育成来 来し社 会を 創造 的に</p>	<p>社会の様々な課題を自分事として捉え、主体的に考え、他者と協働し、問題解決していく意欲や、予測困難な未来社会を切り拓いていくために重要な創造力や課題解決力、情報活用能力を育成します。</p>	<p>①STEAM教育等の教科等横断的な学びや科学教育を推進し、課題解決力や新たな価値を創造する力の育成を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	2	<p>保護者アンケートの「教員は、子どもに考えさせたり表現させたりする授業を積極的に行っている。」の項目に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した保護者の割合。</p>	4:90%以上	<p>【これまでの取り組み】 ・STEAM教育やデータサイエンスについての研修を行い、教員で共通理解した。 ・町探検のお店見学、羽田空港と連携した学習など、地域の特色を活かした学習内容に取り組んできた。教科横断的な学習計画を立て、行事や各学年の学習でゲストティーチャーを招くなど体験活動の充実を図った。 ・令和7年度研究発表に向けて、各学年でICTの活用を推進している。協働的な学びと個別最適な学びの充実を図った。 ・教科「おたの未来づくり」は研究実践学として校内研究で取り組んだ。各学年で年間指導計画を作成し、地元バスケットチームや羽田空港や商店街のお店との連携により地域の特色を活かした学習内容の工夫を行った。</p> <p>【今後の改善策】 ・児童の実態や発達段階に応じて、ICTを活用していく。OJT研修や伝達講習を通して教員のICT活用スキル向上を図る。 ・教科「おたの未来づくり」では、今年度の研究を活かして学習計画、授業展開を見直して実施していく。</p>	A	4	<p>STEAM教育、データサイエンス研修を行いながら地域の特色を踏まえた学習活動を展開し、非常に恵まれた教育環境に子どもたちがいる。教員が研修に力を注ぎ、共通理解をしたことを評価したい。「おた教育ビジョン」が策定され、新しい取組が増える中、先生方は研修・勉強会などにたくさんの時間をかけていると思う。教員の学びが児童の学力につながるよう、地について一歩ずつ着実に成果を積み上げていくことが大切である。</p> <p>一方で、学びの機会が豊富なことは素晴らしいことではあるが、内容が多すぎてしまい、ひとつひとつの学びが浅くなったり、子どもたちの記憶に残りづらかったりしないか。本当に大切にしたい学びとは何かを厳選し、バランスをとり、子どもたちの心に残る学びを大切に、じっくり取り組む時間を確保して欲しい。</p>
		<p>学校内外での様々な体験活動や自己評価する習慣づくりを通して、自ら考え判断する力や、他者と協働していく力の育成を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	3		3:80%以上				
		<p>情報技術を適切に活用した授業の実施を通して、情報活用能力の育成を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	3		2:70%以上				
		<p>「おたの未来づくり科」の研究において地域の特色を活かした学習内容を工夫し、次年度の実施に向けた教科横断的な年間指導計画の作成を行う。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	2		1:70%未満				
<p>お世個 お界別 たと目 標担な2 うが 人材国 を際 育成都 成市 します</p>	<p>英語での実践的なコミュニケーション能力を高めるとともに、我が国や郷土の伝統文化に触れ、尊重する心や、協力していく態度を育成します。また、国際社会・地域社会に関心を持ち、持続可能な社会を形成していく態度を形成します。</p>	<p>外国語教育指導員の活用などにより、英語に慣れ親しみながら会話をする機会を増やし、英語力やコミュニケーション能力の向上、豊かな国際感覚の育成を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	3	<p>自尊感情アンケートの「自分には良いところがある」の項目に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童の割合。</p>	4:85%以上	<p>【これまでの取り組み】 ・ALTと連携して各学年の学習を進めてきた。休み時間にはイングリッシュカフェを開き、英語に慣れ親しむ機会を作った。 ・東京都人権尊重教育推進校として校内研究に取り組んできた。「自分も相手も大切にする言語能力を育成するための指導の工夫」を研究副主題として、MIM・NIE教育・教科「大田の未来づくり」・STEAM教育の充実を図った。 ・町探検、羽田空港との連携、防災マップ作りなど各学年で地域の特性を活かした学習に取り組んできた。</p> <p>【今後の改善策】 ・各教科や特別活動においてSDGsについての取組を実施していく。 ・地域と連携を図り、祭り学習や町探検、バリアフリーの学習などを継続して行っていく。</p>	A	4	<p>町探検、祭り学習や羽田空港の取組は、地域の特色を生かした取組であり、子どもたちが地域の魅力を発見発信する活動に繋がっている。今後も継続・改善していくべきと思われる。新聞活用NIE教育は言語活用において良い取組であり、これからも継続すると良い。英語の習得については日頃から慣れ親しむ環境が必要である。廊下や階段の掲示を工夫する等、環境づくりにも努めていただきたい。また、英語もコミュニケーションツールの一つだが、その大元は日本語である。言葉を大切に、関心をもつことで語彙を増やし、思考のツールとしての機能を高めることで、低学年段階から日常的に意識することは非常に大きな力となる。その意味でも、多層モデルMIMの導入は意義があり、今後も続けていただきたい。</p>
		<p>我が国や郷土の伝統や文化の学習、人権教育を推進し、自分とは異なる文化や価値観をもつ相手を理解し、互いに尊重し合う心の育成を図っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	3		3:80%以上				
		<p>現代社会における地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて考え、行動する活動を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	2		2:70%以上				
		<p>羽田空港や地域の祭りなど、羽田の地域の特色を活かした取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	3		1:70%未満				

<p>た一個 め人別 のひ目 基礎と 3 り3 が個 性力と 能力を 育成し ます する</p>	<p>児童・生徒が豊かな人生を 生きていく上で基礎となる力 として、豊かな心や確かな 学力、健やかな体を育成し ます。また、乳幼児期から 中学校までの一貫性のある 教育を推進します。</p>	<p>道徳科を中心とした各教科等での学習 などを通じて継続的に道徳教育を実施 し、豊かな情操や道徳心の育成を図っ ている。</p> <p>学習習熟度に応じた指導や個に応じた 学習支援、各種検定の実施を通して、す べてのこどもに確かな学力の育成を図っ ている。</p> <p>体育や保健体育の授業など 様々な機会を通して、健康教 育や食育を推進し、基本的な 生活習慣の確立を図ってい る。</p> <p>乳幼児期から中学校まで円滑 な接続を行うため、幼保小の 連携や小中一貫の視点に立っ た教育を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。</p>	<p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>大田区漢字検定 に1回で合格した 児童の割合。</p>	<p>4: 80% 以上</p> <p>3: 70% 以上</p> <p>2: 60% 以上</p> <p>1: 60% 未満</p> <p>【今までの取り組み】 ・道徳科のOJT研修を年3回実施し て教員の授業力向上を図ってきた。 年間を通して計画的に学習を進め、 道徳地区公開講座では講師を招い て児童の道徳心を育成してきた。 ・算数少数人数による指導、中高学年 児童の補習、タブレットドリルによる 個別最適な学びで児童の習熟状況 を把握して指導した。 ・スポーツフェス、ランフェス、一校 一取り組み(短縄、持久走、長縄)、 体育の授業を通して健やかな体の 育成をしてきた。 ・学期に1回以上の養護教諭による 講話、早寝早起朝ごはんカードに よる健康教育の推進を図ってきた。</p> <p>【今後の改善策】 ・今後も少数人数指導、補習によるき め細かな指導を行い、児童の習熟 度を上げていく。 ・体力テストの結果を分析し、児童 の実態に合った健康教育を進めて いく。</p>	<p>A 3</p> <p>B 3</p> <p>C 0</p> <p>D 1</p> <p>算数少数人数において個々の児童への指導が丁寧に行われたり、タブレットの活用で児童の習熟状況を把握したりすることが、昨年度に引き続き取り組まれているので、アンケートの「学校の勉強はよく分かる」の肯定的な回答が87%になっているのだと思う。こどもたちの自分の考えを言葉にする力も育っていると感じる。今後も「分かる・できる」嬉しさをこどもたちに実感させてあげられる授業をお願いしたい。そして学力向上につながることを期待する。</p> <p>児童の「早寝・早起き・朝ごはん」に関する肯定的な回答が69.3%と低いことが気になる。美味しい給食が提供されているので、健康教育に絡めて食育も充実させて欲しい。当校ではPTAや地域の協力者によって「子ども食堂」が定期的に設置されるようになり、企業等でも行われているようである。運営上の準備や苦労は付きものだが、広報については目的・対象が明確であるべきだと考える。貧困やネグレクト等の問題も深刻化しているが、単に誰もが「家族で安く・楽しく食せるだけにならないように気を付ける必要があ</p>
<p>学個 校別 力目 ・標 教師 力 を 向 上 さ せ ま す</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を 通して、教師の授業力を向 上させます。また、質の高い 教育を実現するため、学校 の組織的な運営力を向上し ます。あわせて、教師がやり がいをもって働くことができ る魅力的な環境づくりを進 めます。</p>	<p>児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す 個別最適な学びと協働的な学びの一 体的な充実の視点による授業改善を 行っている。</p> <p>教職員がそれぞれの専門性を 活かしたり、地域の特色をい かしたりして教育活動を行っ ている。</p> <p>教職員の業務適正化に取り組み、児童・ 生徒に教員が向き合う時間を確保する 等、ウェルビーイングを高める取組を 行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満で あった。</p> <p>4:「おおむね高まっている」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答 した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答し た。 1:「おおむね高まっている」と回答した教員が60% 未満であった。</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>3</p> <p>4</p> <p>自己申告書の「4. 能力開発(OJT、 研究・研修、自己 啓発)」の今年度 の目標に対して、 自己評価が「B」以 上となった教員の 割合。</p>	<p>4: 90% 以上</p> <p>3: 80% 以上</p> <p>2: 70% 以上</p> <p>1: 70% 未満</p> <p>【今までの取り組み】 ・学期に1回以上の授業観察、各教科 のOJT研修などを通して、教員の 授業力向上を図った。 ・校務分掌などの適切な人員配置 により、教員それぞれの専門性を活 かした教育活動に取り組んできた。 ・スクールサポートHANEDA、教員 支援員により教職員の業務軽減を 図った。</p> <p>【今後の改善策】 ・校務分掌の人員配置の見直し、行 事や業務内容を精査することで、業 務適正化に取り組む。</p>	<p>A 3</p> <p>B 3</p> <p>C 0</p> <p>D 1</p> <p>保護者の肯定的評価87%は、学校の取組の 正当な評価と思われる。教員の資質向上に力を 注ぎ、各教科のOJT研修に取り組む姿勢も評価 したい。地域や保護者のサポートを得ることで、 教員とこどもたちが向き合える時間が増えること を期待する。自治体を含めた地域や関係団体、 及びCS・SS・PTA等の連携協力の輪を拡充し、 学校とのしっかりとしたパイプを構築すると共 に、教師力向上の支援ができるとうい。時代と 共に教員が学ぶ内容が増えており、授業のみな らず対応すべきことが多々あるので、心身共に 健康であって欲しい。</p> <p>学校だより等で、羽田小学校が力を入れていることなどを知ることができているが、さらに「こどもたちのために、こんな取組をしている」など、知る手立てがあるとありがたい。</p>

<p>た自個 め分別 の学し びく5 をいき 援いき と生き る</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えらるとともに、相談機能の充実を図ること、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「組織的な対応ができた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満の教員が回答した。 2:60%以上80%未満の教員が回答した。 1:「組織的な対応ができた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>いじめアンケートの項目「学校は楽しいですか」の項目に、「楽しい」と回答した児童の割合。</p>	<p>4: 85%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満</p> <p>【今までの取り組み】 ・校内特別支援委員会、生活指導夕会などを定期的に行い、学校全体で共通理解を図り、特別な支援やいじめ防止、早期発見に取り組んだ。 ・巡回指導教員と連携しフィードバックをもとに支援を進めた。 ・人権尊重教育推進校として校内研究で「自他ともに認め合える指導の工夫」をすることで、いじめ未然防止に取り組んだ。 ・スクールカウンセラーなどと連携して、児童、保護者が相談しやすい環境を整備した。</p> <p>【今後の対策】 ・今頃の報告、連絡、相談、記録を徹底し、適切に保護者、各機関と連携していく。 ・特別な支援が必要な児童について、校内特別支援委員会にて情報共有し、一貫した指導を続けていく。</p>	<p>A 4 「学校は楽しい」と思っている児童が85%と肯定的な評価で、自己評価も妥当と思われる。多少のトラブルや友達関係の悩みはあるものの、それでも楽しいと思えているのは、問題が起こった時の迅速、丁寧な対応ができていからだと感じる。スクールカウンセラーとの連携が早期の支援につながるの、今後も連携に努めて欲しい。 B 2 一方で、保護者が「楽しく学校に通っている」と思っている割合がは回答率が76%のうちの91%となっている。児童と保護者の感覚のギャップが6%あるところが、保護者がこどものことを把握しきれていないのではないかと感じる。当然教員も同様であり、見えないところに落とし穴はないか注意が必要である。「学校は楽しい」と思えない15%の児童に、なぜそう思うのか掘り下げるのが大切である。 C 1 また、本校に特別支援教室がないため、転校せざるを得ないようなことは、インクルーシブ教育の動きに逆行している。社会的ニーズの高まりもあり、学校としても体制づくりを急がれているところであるが、インクルーシブ教育の理念を実現するには、保護者、地域社会を含めて多様性を尊重するような文化が根付いていることが必要なので、地域のネットワークとの協働も推進されるとよい。</p>
<p>安柔軟 心軟別 な目 教育創 造6 環的 境な 学習 空間 と安全 ・</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境の整備を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて学習環境を整備している。</p> <p>学習者用タブレット端末や学校図書館を活用した指導に取り組んでいる。</p> <p>避難訓練や安全指導日などを通して、危険な災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p> <p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。 3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。 2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。 1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>児童アンケート「学校や家庭での学習に、タブレットを活用していますか」の項目に、「そう思う」「だいたいそう思う」と回答した児童の割合。</p>	<p>4: 85%以上 3: 80%以上 2: 70%以上 1: 70%未満</p> <p>【今までの取り組み】 ・教室掲示の統一、月1回の安全点検を行い、教室環境を整備した。 ・学習者用端末の活用を推進し、教員のICT活用能力向上のためにOJT研修を学期に2回行った。 ・年度当初に学校全体で統一してタブレットの使い方を指導し、「学習にのみ使用する」として保護者、児童へ情報モラルについて周知した。 ・避難訓練、地域連携防災体験、安全指導日を実施して、災害に対する知識や技能の定着を図った。</p> <p>【今後の対策】 ・ユニバーサルデザインの観点から、教室掲示などを見直していく。 ・今後も、避難訓練などを通して災害に備える意識を高めていく。 ・ICTを活用した授業の充実を図る。</p>	<p>A 5 今年度秋に行われた地域連携防災体験は、体験学習として非常に効果的であった。今後も地域力として強みにしたいのでぜひ続けて行って欲しい。来年度は町会との打ち合わせや対話を十分に行い、内容を充実させていきたい。 B 2 ICTの時代になり、児童全員にタブレットが手渡され、家庭に持ち帰って学習に使用するなど、教育環境も大きく様変わりしている。効果的な使用の半面、リスクも伴うので、情報リテラシーの教育が必要である。タブレットの使い方やSNSでのトラブルに関しての学校の指針は必要と考えるが、指針の作成にあたっては、保護者や地域とも協働する必要がある。今やSNSは誹謗中傷やフェイクの温床の体をなしており、AIも活用されるようになり、人権侵害事案でのトラブルとして最も啓発の必要性があるものである。これらの情報モラルにおける人権教育についてもそうだが、人権教育推進校として人権に関わるテーマについて10分程度でもよいので「人権教室」として集会や給食時の放送、PTA主催の親子集会、保護者集会等で取り上げて欲しい。</p>

